



## (公社)鹿児島県鍼灸マッサージ師会 生涯研修会報告《神経疾患に対しての鍼灸アプローチ》

公益社団法人鹿児島県鍼灸マッサージ師会 会長 | 大勝 孝雄

### 第1回生涯研修会

令和7年6月1日（日）鹿児島県鍼灸マッサージ師会会館にて、神経疾患領域の研究と臨床の第一線でご活躍中の建部陽嗣氏を講師にお招きし、「脳神経疾患に対する鍼灸治療」をテーマにご講演いただきました。建部氏は医学部を中退後、明治鍼灸大学大学院修了、その後京都府立医科大学で医学博士を取得し、同大学の助教を経て、現在はアボットジャパン合同会社 総合研究所 室長として脳イメージング、認知症のバイオマーカーの研究開発に携わられています。鍼灸師でありながら最先端のバイオマーカーの研究をされる類まれな存在であり、業界きっての新進気鋭の学者です（図1）。



図1

午前の講義は、現代日本が抱える高齢化と神経疾患の深い関係性、しびれや感覚異常の

訴えに対する評価・診断の重要性について、豊富な臨床経験をもとに解説いただきました。特に、視床梗塞や椎骨動脈解離など緊急度の高い症状の鑑別、および糖尿病性ニューロパチーや末梢神経障害における典型的なしびれの分布パターンについては、実際の症例を交えて詳細に説明されました（図2）。



図2

神経筋疾患に対する鍼灸の具体的アプローチとして、顔面神経麻痺に対するツボの選定、足根管症候群に対する脛骨神経刺鍼、腓骨神経や前脛骨筋に対する鍼通電刺激の適応例などが紹介され、解剖学的構造に基づいた治療戦略の必要性が示されました。特に、痙縮や運動障害に対する筋への鍼通電については、筋紡錘や感覚運動野への影響を含めた中枢機構への作用仮説も提示され、会場では多くの関心が寄せられました。午後の講義は、会員に対して12脳神経の評価を示され、打腱器、音叉、筆、など神経診断の器具を用いて、検査手技の神髄を供覧した後、直接手ほどきを受けました。そして評価の臨床的意義を学びました。モデルの会員に顔面神経麻痺、頭痛、頸椎神経根性疼痛など電気鍼を鍼実技供覧さ

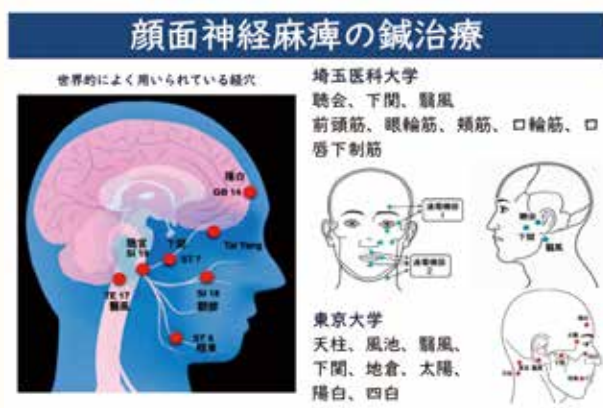


図3

れました(図3)。

本会の会員の多くは、訪問マッサージを生業としています。老人施設、居宅と歩行困難患者のADL・QOLの向上を目的としています。患者の多くは神経疾患であり脳卒中、パーキンソン病の施術になります。今回の研修会は神経学的所見、レッドフラッグなど本会会員の基礎知識の習得に大きな学びを授かったと思います(図4)。



図4

## 第2回生涯研修会

令和7年6月22日(日)カクイックス交流センター(かごしま県民交流センター)難病鍼灸治療、YNSA講師の康祐堂あけぼの漢方鍼灸院 富田祥史氏をお招きして「YNSA(山元式新頭鍼療法の実践)」をご講演いただきました(図5)。

ドイツ、アメリカ、ブラジルをはじめ世界14か国で医療として導入されていて日本人



図5



図6

医師が半世紀に渡って開発した、中国式でない独自の鍼治療です。その治療効果の高さからハーバード大学医学部やドイツのケルン大学でも高く評価され世界各国で10万人以上の医療従事者が実践している、日本初の素晴らしい鍼治療、それが宮崎県の医師山元敏勝先生が開発された山元式新鍼療法 YNSA (Yamamoto New Scalp Acupuncture) です(図6)。



YNSA のユニークなところは、身体のコボに刺すのではなく山元先生が独自に発見された頭部の反射区に治療点を求めるところです。症状により治療点が決まっているので東洋医学の難解なトレーニングを必要としていません。



図 7

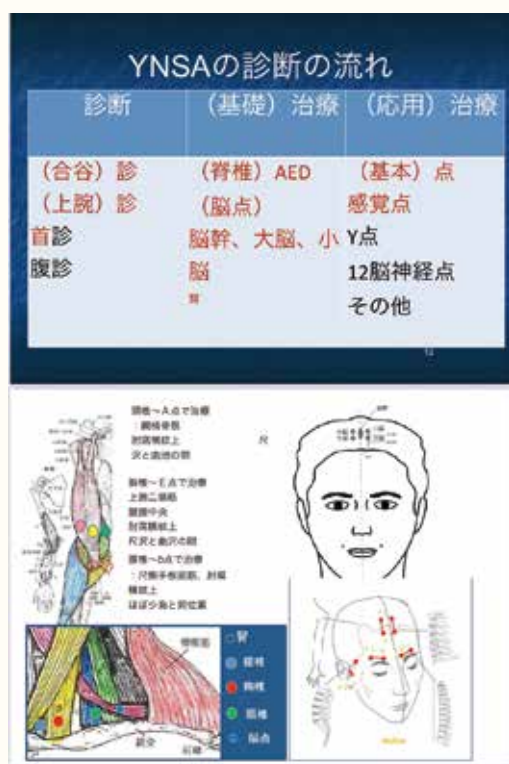


図 8

YNSA の適応は従来の鍼治療や西洋医学での治療が難しいとされる、脳卒中、脊損、パーキンソン病です。そのような難治症例にとっても信じられない効果を発揮します。片麻痺の痙縮が消失したり、振戦が減弱したり、歩行できたりリアルな動画を見て驚愕でした。

午前中は基礎の診断と基礎治療を学びました。診断は合谷診断(右左)治療側を決めます。そして上腕診断、首診断、腹診断をして基礎治療と応用治療をします。今回は9基本点の基礎治療とその効果判定を学びました(図7,8)。

午後からは診断から治療までの実技供覧を見学して、ペアを組み患者と施術者で診断から治療そして効果確認の診断をしました。明日から訪問での脳卒中の患者につかえると会員の皆様に好評の実技でした(図9)。



図 9

訪問マッサージ・鍼灸はとりわけ介護度の高い患者が多く、圧倒的に脳卒中片麻痺・言語障害・神経因性疼痛、パーキンソン病のオンオフ・ジスキネジア・すくみ足・自律神経障害など YNSA で軽減するならば使わない手はないと確信して本年度あるベーシックセミナー参加を決めました。

今回の6月に開催した2つの生涯研修会はひと昔前だったら考えられない神経内科的疾患の鍼灸アプローチが盛りだくさんでした。近年、海外のメタ分析でも神経疾患への鍼灸の介入研究の報告が多くされています。

本会は2025年から急加速する超高齢化社会に向け、エビデンスレベルをあげて貴会の指導をいただきながら市民のヘルスケアに邁進いたします。